

令和7年度北海道俱知安高等学校 第2回 学校運営協議会 報告書

- 1 目的 本校は、後志管内羊蹄山麓にて地域に根ざす伝統校である。グローバルな地域の教育資源を活用しながら、広い視野で地域の課題を見つけ、その課題を解決するための方策を協働的に検討し、実践的な教育活動を通して人材の育成を図ることを目的とする。
- 2 日時 令和7年10月21日(火) 18:00~19:30
- 3 場所 北海道俱知安高等学校 会議室
- 4 出席者 《学校運営協議会委員》敬称略
古谷 眞 司〔地域住民〕
木村 聖 子〔地域住民〕
吉田 聡〔地域住民〕(欠席)
高田 直 紀〔保護者〕
濱崎 順 平〔運営に資する者〕
平野 雄 二〔行政機関の職員〕
中村 直 也〔行政機関の職員〕(欠席)
白川 博 順〔地域住民〕
遠藤 正〔学識経験者〕(欠席)
《校長及び教職員》
佐々木 真 一〔校長〕
宮澤 正 行〔教頭〕
瀬尾 武 嗣〔教諭・産学連携〕
川本 賀 信〔教諭・教育連携〕
《オブザーバー》敬称略
早川 貴 士〔観光協会〕
松井 雅 子〔地域住民〕
増田 朱 里〔地域住民〕
干場 郁 子〔地域住民〕
入間 なぎさ〔地域住民〕

5 議 事

- (1) 自己紹介
- (2) 取組説明〔教育連携(川本)・産学連携(瀬尾)〕
- (3) 熟議のテーマ
 - ①「地域から見た俱知安高校の魅力と課題」
 - ②「地域が高校に期待していること」
 - ③「魅力づくりへの具体策(提案)」
- (4) 短期的・長期的視点から〔今できることと数年かけること〕



6 熟議内容

- ・日本の中でも、特殊な町(地域)で探究学習する上で魅力が多くある。しかし、俱知安高校の生徒たちはその魅力をよく知らないまま、地域へインタビューに出てしまうと、学習内容を掘り下げていくことが難しいように見える。じゃが祭などの地域のイベントに主体的に参加することも、生徒の地域愛を育て、学校の魅力を発信することになるのではないかと。交流することで地域の理解を深めて欲しい。
- ・俱知安高校は、俱知安町だけでなく羊蹄山麓の町村の中学生が進学してきている。もっと広範囲な視点で魅力作りを考える必要がある。例えば、町外に学校活動を伝えに出向き、情報発信を行う。部活動(吹奏楽局等)の取組や、地域にいる同窓会の方々を通して広く伝えられると良い。
- ・コミュニティスクールは、学校と地域を結びつけるのに、意義深い存在である。観光協会や、ポケラボ(子育て応援し隊)の方々の参加は、実働している面からの率直な意見を頂くこともでき参考にしていく。優秀な生徒が進学しているので、学びの場や活躍の場を地域の方々に見せると良い。
- ・俱知安高校は、羊蹄山麓周辺の伝統校として普通科の進学校として存在を示してきた。しかし、それ以外の魅力は具体的に見られない。今後、時代の多様性に対応できる選択肢の多い高校だと魅力を感じると思う。
- ・中学生は具体的に高校の魅力を探している。どんな部活動があるのか、どんな図書館(施設)があるのかなど。〇〇教室・△△イベントといった、中学生に魅力的な活動を実行し示す必要がある。
- ・俱知安高校の野球部に興味があるが、学習内容への興味関心が異なる高校に進学する友人と離れるのが辛いと感じている。All 俱知安などの合同チームの活動はできないのでしょうか? また、特技を身につけられる高校として、アピールできると良い。
- ・子どもは、地域性のある義務教育を送ってきているが、「普通科=魅力がない」と感じてしまう。地域に開かれた学校として、多様性を受け入れ、個々に柔軟性・専門性を取り入れてはどうか。例えば、実用的な語学力や観光人材育成に対応できると良い。部活動など長期にわたる不在にも対応(公欠・学習保障)できると良い。